

# 真の友とともに — 大原孫三郎 —

白壁の町、倉敷。文化都市としても名高いこの町の中心に大原美術館がある。

この美術館の設立者、大原孫三郎は、明治十三年（一八八〇年）、今の倉敷市に生まれた。

大原家は、当時、百町歩を超える土地を所有する地主であったが、この後、大きな紡績会社を経営するほどの財産家となった。

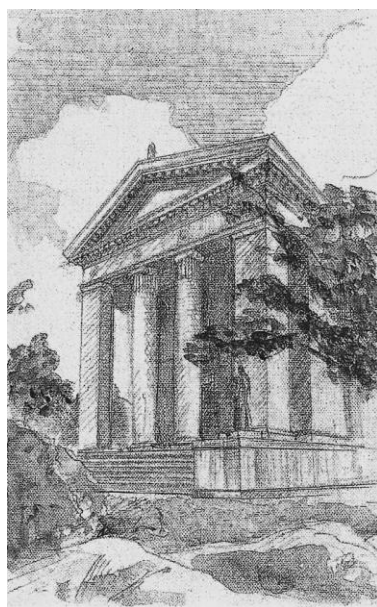
兄の病死でかけがえのない跡継ぎとなった孫三郎は、自由気ままで、わがままいっぱい育てられた。周囲からは「生意気なやつ」と言われ、少年時代の孫三郎は、心を許し合える友達がいなかった。

十六歳になった孫三郎は、父親の反対もあったが、家族の説得により上京を許され、東京専門学校（現在の早稲田大学）に入学した。「あの大原の息子」という特別な視線から逃れ、真の友人を求めて都会暮らしを始めたのだ。しかし、その新しい生活も一年とは続かなかつた。彼を利用しようとする悪友たちにそのかされて、孫三郎の生活は乱れ、多額の借金をしてしまったのだ。

事情を知った父親の激しい怒りを受け、倉敷へ連れ戻された。夜汽車の中で、孫三郎は車窓を流れる暗闇をぼんやりと見つめていた。

（大変な過ちを犯してしまった。自分は、いったいこれからどうしたらいいんだ。）

明治三十二年（一八九九年）七月、失意の孫三郎に一大転機が訪れた。人に誘われて行った岡山孤児院の慈善音楽



百町歩：約一〇〇ヘクタール。

大原家：父親は倉敷紡績社長の大原孝四郎。大原家は、明治末期頃に約五〇〇ヘクタールを超える土地を所有する大地主。

孤児院：両親に死別するなどして、頼れる人がいなくなった子供を養育する施設。

会で、院長の石井十次に出会ったのだ。自分の全てをかけて孤児の救済と教育のために走り回る十次の姿に、孫三郎は身が震えるのを感じた。

(こんな人がいるのだ、こんな生き方があったのだ……)

そして、孫三郎と十次との交友が始まった。良い本を読むように、日記をつけるようにと十次は親身になって孫三郎に忠告した。孫三郎もまた、毎日が悪戦苦闘の孤児院経営について、十次の相談相手となった。孤児院の一室で深夜まで語り合いながら、孫三郎は自分という人間が変わっていくのを感じていた。

十次の強い影響を受け、人のために、社会のために、自分の生涯と財産とを捧げようと考えた孫三郎は、一時は千二百人もの子どもを抱えていた岡山孤児院への資金援助を手始めに、次々と社会事業を手がけていった。

同じころ、孫三郎は児島虎次郎という若い画家と出会った。虎次郎は孫三郎の一歳年下で、家業のかたわら絵の道を志し、単身東京で勉強を続ける苦学生だった。虎次郎は、画家として生きていく決意をとつとつと話し、そのひたむきな情熱と純粋な人柄は孫三郎の胸を打った。

(ここにも、すばらしい人がいた。虎次郎さんは誠実で、信頼できる人だ。この人と友達になりたい。そして、彼の才能を伸ばす手伝いがしたい。)

孫三郎は、虎次郎を物心両面にわたって援助し、虎次郎もまた孫三郎の期待にこたえようと創作に打ち込んだ。孫三郎の紹介で、十次と出会った虎次郎は、岡山孤児院に寄宿して、昼は子どもたちをモデルに筆をとり、夜は孫三郎や十次と共に語り明かすようになった。

明治四十年(一九〇七年)、孤児院での情景を描いた虎次郎の絵は、東京勸業博覧会美術展で一等賞を取った。自分のことのように喜んだ孫三郎は、さらに本場で学んでほしいと、彼をヨーロッパ留学に送り出した。

虎次郎との出会い：この年、東京美術学校に入学した虎次郎が応募した奨学生の面接が、二人の出会いだった。孫三郎は、郷土出身の有望な若者を援助しようとして「大原奨学会」を設立していた。

一等賞：この美術展で一等賞を取り、宮内省御買上となった「なさけの庭」は、虎次郎が岡山孤児院に住み込んで、その情景を描いたものである



虎次郎からの手紙を前に思案に暮れる孫三郎

虎次郎は、多くの画家との交流を通して多くのものを学び、創作活動に邁進した。ベルギーの美術学校を首席で卒業したのちに帰国した。しかし、虎次郎のような大器を日本の中に埋もれさせるのは惜しいと考えた孫三郎は、朝鮮・中国への旅行を、また二度目のヨーロッパ留学を勧めた。期待どおり、虎次郎は日本人として初めてサロン・ソシエテ・ナショナルの正会員になり、パリで最も認められた日本人になった。

そんなある日、孫三郎の元に、虎次郎から思いがけない手紙が届いた。「若い画家たちの勉強のために、日本の芸術界のために、西洋の近代名画を日本で見る機会を作りたい。そのために、本物の絵を少しでも多く日本に買って帰りたい。孫三郎さん、力を貸してほしい。」というものだった。

当時は、美術品のコレクションなど、金持ちの道楽と思われていた。その上、第一次大戦後の不景気で、孫三郎の事業の経営状態は大変厳しかった。そもそも、留学の目的は、虎次郎自身の絵の勉強のためであつたはずだ。

(虎次郎さん、洋画の収集はそんなにも意義あることなのか。)

何通にもおよぶ懇願の手紙を前に、孫三郎は悩んだ。

八か月後、迷った末に孫三郎は洋画購入を認める電報を打ち、その費用を送った。

(私には絵の価値は十分わからない。しかし虎次郎さんは、優れた洋画が必ずや日本美術教育のために、社会のために役立つものと信じている。そして彼は、私ならその考えを理解するはずだと確信している。私も、彼の信念と情熱を信じよう。)

昭和四年(一九二九年)、虎次郎はアトリエで倒れ、四十七歳の短い生涯

サロン・ソシエテ・ナショナル：一八六二年に創設されたフランスの美術団体。フランス美術の中核を支えていた。

を閉じた。

そして翌年、虎次郎の遺志を継いだ孫三郎の手によって、大原美術館は開館した。

「虎次郎さん、やっとできたよ、日本で最初の洋画の美術館が。私たちの願いが叶った美術館じゃ。そして、君が望んだように、この倉敷を、きつと文化の中心地にしてみせるよ。」

それから九十年、「友情」という固いきずなで結ばれた二人の生きざまを見つめてきた名画の数々は、今日も「世界のオオハラ」の壁を飾っている。

#### 大原孫三郎略年譜

- 一八八〇 倉敷市に生まれる。
- 一八九七 東京専門学校（現早稲田大学）に入学する。
- 一八九九 石井十次と出会う。大原奨学会を設立する。
- 一九〇二 児島虎次郎と出会う。
- 一九〇六 倉敷紡績社長と倉敷銀行（現中国銀行）頭取に就任する。
- 一九一四 大原奨農会（現岡山大学内）を設立する。石井十次没する。
- 一九一七 石井記念愛染園（貧困者対象の夜学校・保育所）を設立する。
- 一九一九 大原社会問題研究所（現法政大学内）を設立する。
- 一九二一 倉敷労働科学研究所（現大原記念労働科学研究所）を設立する。
- 一九二三 倉紡中央病院（現倉敷中央病院）を開院する。
- 一九二六 倉敷絹織（現クラレ）を設立する。
- 一九三〇 大原美術館を開館する。
- 一九四三 孫三郎没する。

#### 児島虎次郎略年譜

- 一八八一 高梁市成羽町に生まれる。
- 一九〇一 絵を学ぶために東京に出る。
- 一九〇二 東京美術学校（現東京芸術大学）に入学する。
- 一九〇四 東京美術学校を卒業する。
- 一九〇八 ヨーロッパに留学する。
- 一九一二 ベルギーのセント美術アカデミーを首席で卒業する。
- 一九一三 石井十次の長女友子と孫三郎の媒酌で結婚する。
- 一九二〇 サロン・ソシエテ・ナショナルの日本人初の正会員になる。
- 同年 モネの「睡蓮」の買い付けに成功する。
- 一九二二 エル・グレコの「受胎告知」の買い付けに成功する。
- 一九二九 虎次郎没する。

1 主題名 真の友情 [B 友情、信頼]

2 ねらい

友情を深めていくために大切な気持ちを考えていく中で、互いに相手のことを理解し信じ合おうとする気持ちが大切なことに気付き、友達と互いに信頼し合い励まし合っていこうとする態度を養う。

3 主題設定の理由

(1)内容項目について

本時で取り上げる内容項目は、B 友情、信頼「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。」である。

真の友情は、相手の人間的な成長と幸せを願い、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという平等で対等な関係である。友達を信頼するとは、相手を疑う余地がなく、いざという時に頼ることができる信じて、全面的に依頼しようとする気持ちをもつことであると考えている。

第2学年では、友情は人間にとってその人生を豊かにするかけがえのないものであることを理解させ、ともに支え合い励まし合っていこうとする態度を養っていききたい。

(2)生徒の実態について

本学級の生徒は、人間関係が固定化したり、一緒にいて楽しいから行動を共にしたりする傾向が見られる。本当に心を許し合える友達を求めているが、その反面、特定の人間関係に固執したり、相手に安易に同調したり、もしくは自分が傷つくことを恐れて距離をおいた関係を保って付き合ったりしている。また、深く考えず自分と違うところを批判したり、お互いのためにならないことをしてしまったりする生徒もいる。

そこで、真の友情や友情の尊さについて理解を深め、自分を取りまく友達との友情をより一層大切に育てたい。

(3)教材について

本教材は、財閥の家に生まれた大原孫三郎が、人間関係に挫折しながら、真の友情を求め、石井十次や児島虎次郎との出会いを通して、真の友を得て、大原美術館の設立に至った話である。主人公である大原孫三郎が人間関係の悩みや葛藤を乗り越え、信頼と友情という強い絆で結びついた虎次郎との関係から、友情とは相手を心から信頼し、お互いを尊重し合うことが大切であることに気付かせたい。

4 板書例

<p>大原孫三郎の 写真</p> <p>○これからの自分に生かしていきたいこと</p>	<p>○手紙をもらった時の 気持ちは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学に専念してほしい。</li> <li>・今はそんな大金は出せない。</li> <li>・もっと有益なものに使いたい。</li> <li>・虎次郎はよい絵を見る機会をつくってくれ。</li> <li>・日本のために役立ててくれる。</li> <li>・虎次郎の思いに込めたい。</li> <li>・虎次郎のためにできるだけのことをしよう。</li> <li>・虎次郎は信じられる人間だ。</li> <li>・虎次郎のためにできることをしよう。</li> <li>・友を信じなくてどうするんだ。</li> </ul>	<p>○友情を深めるために 大切な気持ちは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いが考えていることを理解しようとする気持ち。</li> <li>・相手を心から信じようとする気持ち。</li> <li>・相手の期待に応えようとする気持ち。</li> <li>・相手が望むことをしたいという気持ち。</li> </ul>	<p>○手紙を送っている時の 気持ちは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の人に本物の絵を見てほしい。</li> <li>・日本の美術教育に役立てたい。</li> <li>・孫三郎ならわかってくれる。</li> <li>・孫三郎を信じていた。</li> </ul>	<p>児島 虎次郎 の写真</p> <p>真の友とともに — 大原孫三郎 —</p> <p>めあて 友情を深めていくためには、どんな気持ちが必要なのか考えよう。</p>
---	---	--	---	--

5 他の教育活動との関連

美術科 (鑑賞)、社会科 [歴史的分野] (近代)

6 学習指導過程

○は基本発問 ◎は中心発問

学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点
1 友達関係について考え、本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達と気持ちが通じ合ってよかったなど思ったことがあるか。</li> <li>○ 友達関係で悩んだことはあるか。それは、どんなことか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達関係に関するアンケートの結果を簡単に紹介し、生徒が学習課題をとらえやすくする。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     友情を深めていくためにはどんな気持ちが大切なのか考えよう。                 </div>		
2 教材「真の友とともに」を読んで話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の導入時に、2人の写真を示しながら概要を説明し学習に見通しをもたせる。</li> </ul>
(1) 手紙を送った虎次郎の気持ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 虎次郎は、どんなことを考えて孫三郎に何通もの懇願の手紙を送ったのだろう。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人にもぜひ本物の絵を見てほしい。</li> <li>・日本の美術教育のために役立てたい。</li> <li>・孫三郎なら気持ちを分かってくれる。</li> <li>・孫三郎のことを信じていた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめずに手紙を送ったことから、虎次郎の孫三郎を信じる気持ちを押さえる。</li> </ul>
(2) 手紙を受け取った孫三郎の気持ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 虎次郎からの手紙を受け取った孫三郎はどんなことを考えていたのだろう。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・今は留学に専念してほしい。</li> <li>・そんなお金を出せる余裕はない。</li> <li>・もっと有益なものにお金が使えないのでは。</li> <li>・虎次郎はよい絵を見る機会をつくってくれる。</li> <li>・購入した絵を日本のために役立ててくれる。</li> <li>・虎次郎の思いに応えたい。</li> <li>・虎次郎の情熱を無駄にしたくない。</li> <li>・虎次郎のためにできるだけのことをしよう。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで話し合う時間を取った後、全体で共有する。</li> <li>・生徒の発言に対して問い返し、考えを深めさせる。</li> <li>・高額な資金がかかっても、購入を認めたことから、孫三郎の虎次郎への揺るがない友情と信頼について考えさせる。</li> </ul>
(3) 友情を深めるために大切な気持ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2人の生き方から、友情を深めていくにはどんな気持ちが大切だろう。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いが考えていることを理解しようとする気持ち。</li> <li>・相手を心から信じようとする気持ち。</li> <li>・相手の期待に応えようとする気持ち。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで話し合ってきたことをもとに、友達とは互いに理解し信じ合う関係であることをおさえるようにする。</li> </ul>
3 これまでの自分について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の友達関係を振り返り、2人の生き方をこれからの自分にどのように生かしていきたいか書こう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のこれまでの友達関係を頭に描きながら、今の自分にどう生かすか考えさせる。</li> </ul>
4 まとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先人の友情についての言葉を聞こう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先人の言葉を通して、実践への意欲を高めることができるようにする。</li> </ul>
<b>評価の視点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合いなどを通して多様な考えを出し合い、互いに相手のことを理解し信じ合おうとする気持ちの大切さに気付くことができたか。</li> <li>・自分の友達とのかかわり方を振り返り、互いに信頼し励まし合っていこうとする意欲を高めることができたか。</li> </ul>	

## 7 参考資料

### (1)大原孫三郎の手がけた主な社会事業

#### (ア)大原奨農会（現「岡山大学資源植物科学研究所」）

孫三郎は、米の品種改良と農業技術の向上を図り、また小作農に対しては、技術指導員を派遣するなどして、自作農への自立を促そうとした。大原奨農会は、1914年、農業の科学的研究と農業改良のために設立され、1928年、大原農業研究所と改称された。ここでの研究が、岡山名産の白桃やマスカットを生むこととなる。

#### (イ)大原社会問題研究所（現「法政大学大原社会問題研究所」）

石井十次の死後、その事業を継承した孫三郎は、「救貧より防貧」との思いに至り、貧困の原因を科学的に究明し、その解決策を見出そうと、1919年、大阪市に設立した。前身は、石井記念愛染園内の救済事業研究室であった。

#### (ウ)倉敷労働科学研究所（現「日本労働科学研究所」）

孫三郎は経営者でありながら、倉紡万寿工場内に、労働問題の研究施設を作った。工場内の労働衛生や保健管理の改善を目的とした研究から、女子工員の深夜労働の撤廃や就労年齢の引き上げなど、戦後の「労働基準法」のベースとなる多くの提案がなされた。1937年、日本学術振興会に寄附されて東京に移転。現在も神奈川県川崎市に存続。

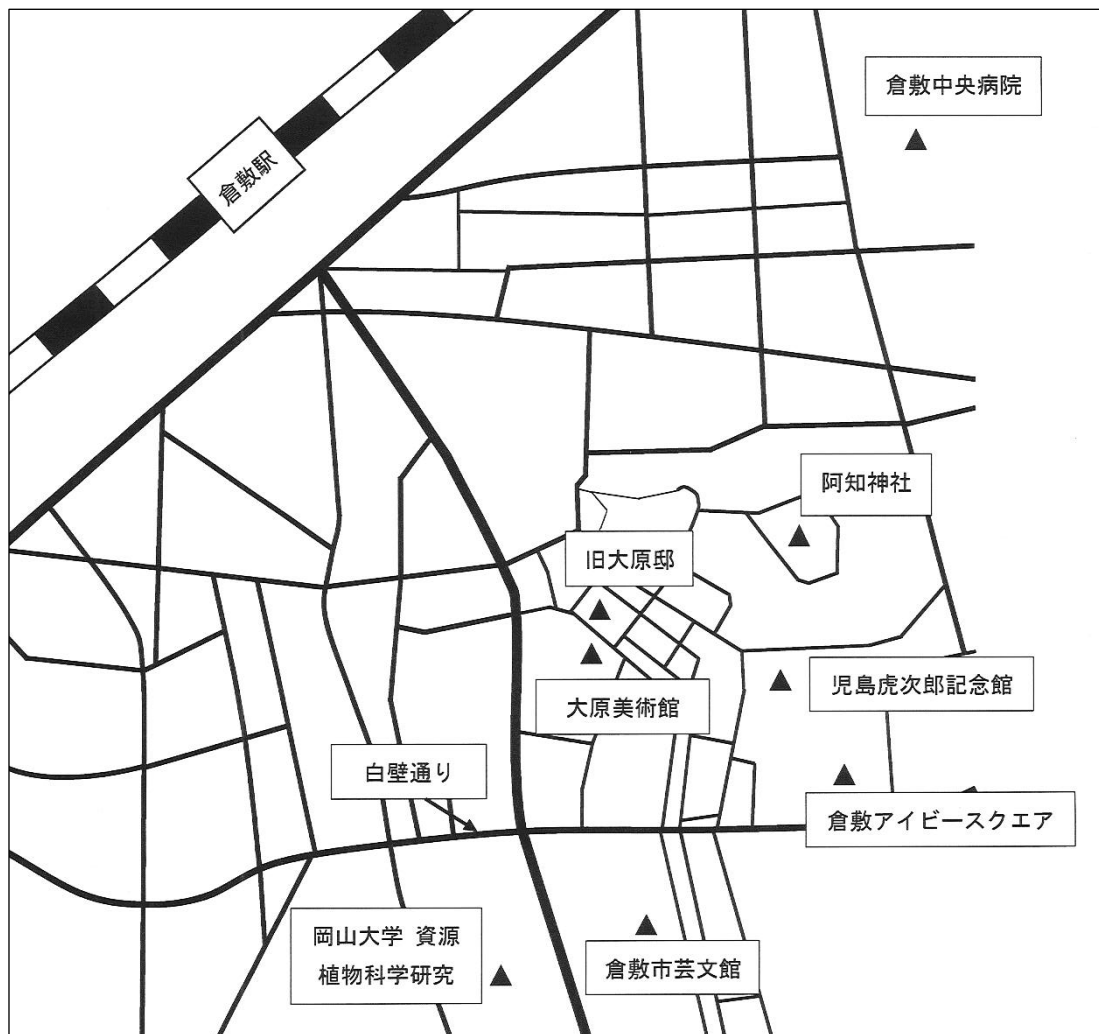
#### (エ)倉紡中央病院（現「倉敷中央病院」）

倉敷紡績従業員約一万人とその家族のみならず、広く一般にも開放された。個室の使用を料金でなく病気の軽重で振り分けたり、従業員や患者への差し入れや贈り物を禁止したりなど、平等主義で治療本位を経営方針とし、東洋一の理想的な総合病院を目指した。

#### (オ)その他

孫三郎の他の社会事業としては、資料にある「大原奨学会」の設立や石井十次の事業への援助と継承に加えて、中央の一流講師による「倉敷日曜講演会」の開催、倉敷商業補習学校（現「倉敷商業高校」）の開校、倉紡の保育所を一般開放した「若竹の園」の設立、ヨーロッパの学術図書の購入と図書館設立など枚挙にいとまがない。

## (2) 大原美術館周辺地図（大原孫三郎ゆかりの施設等）



## (3) 参考文献等

- ・『大原孫三郎傳』大原孫三郎傳刊行会
- ・『大原美術館ロマン紀行』今村新三（日本文教出版）
- ・『わしの眼は十年先が見える：大原孫三郎の生涯』城山三郎（飛鳥新社）
- ・『夢かける 大原美術館の軌跡』（山陽新聞社）
- ・『児島虎次郎略伝』児島直平（児島虎次郎伝記編纂室）
- ・「クラレスペシャル『世のために描く光と夢』～大原孫三郎と児島虎次郎の絆～」  
（テレビせとうち）
- ・大原美術館ホームページ <https://www.ohara.or.jp>